

河津桜（七沢）（撮影 阿部会員）

令和4年4月号 Vol. 216
(2022年)

発行：令和4年4月8日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《奥七沢パワースポットと神秘の里を歩いて》

行事区分：会員研修（ハイキング）

日時：3月6日（日） 9：30～15：00

場所：東丹沢七沢観光案内所～七沢神社遥拝所～伊勢原浄水場～日向薬師～日向山～
観音寺～東丹沢七沢観光案内所

参加者：会員5名、元会員1名、入会予定者1名

3月6日 日曜日、特に新人向けに、ガイドの仕方の基本を実地で勉強しました。ガイドする時に心がける事や、聞き取りやすい発声等を楽しく学びました。

「ア・カ・シ・ヤ」※の確認からスタートし、最初に七沢神社遥拝所に行きました。遥拝とは遠くから神様を拝む事と聞き、なるほどと納得しました。

次は伊勢原浄水場です。ここでは新人としてパンフレットを音読し、たちまち滑舌の悪さや読み方の間違いを指摘されました。今まで新聞等を読むときに黙読しかしておらず、音読の大切さを思い知りました。※先月号参照 編集担当者

日向薬師でおにぎりを食べ、お庭の満開のミツマタを見て、日向梅園、日向山山頂と進みました。

薬師林道の大きな石や、根っ子を避けながら進むコースは森林セラピーを楽しむことができ、亀石から受けるパワーを感じ取りました。



日向山山頂（404m）

メンバーの解説を聞いて歩いた一日は、昨年同じコースを一人で歩いた時とは、全く違う印象でした。ガイドが付くと見方も全く異なることを実感し、ポイントとポイントの間での話題等を普段から用意して、散策を飽きさせない事も大切だと思いました。

（小林 記）



日向薬師での研修風景

《冬季観光客入込み調査》

行事区分：行事支援

日 時：3月13日（日） 9：00～16：00

場 所：市内拠点5箇所

参加者：会員11名

広沢寺温泉（七沢観光協会駐車場）

ついこの間までの殺風景な冬の景色は消え、あちらこちらに春の到来を告げる暖かい色の花が見え始めた里山を自転車で広沢寺温泉に向かいました。朝の8時半、駐車場は既に6割ほど車で埋まっていた。のんびり歩ける低山ハイキングコースに囲まれ、のどかな里山風景とあいまって人気が高いエリアです。鐘ヶ嶽や日向山ハイキングに加え、野鳥の写真を撮りにきた人、不動尻のミツマタに向かう人、日向梅園日向薬師を経て伊勢原方面に帰る人、子供にハイキングの楽しさを教えたいお父さん、ハイキングの後の温泉が楽しみできたグループ、大勢でハイキングを楽しみに来た横浜の山岳会、マス釣りと川魚料理が目的の家族連れ。待ちかねた春の到来をそれぞれの楽しみ方で、午前中には駐車場が満車となり、それ以降駐車待ちのお客様が続きました。



入込み調査のカウント以外でも忙しい広沢寺温泉でした。

（山下 潔 記）

七沢温泉（盛楽苑駐車場）

数日前は真冬の気温だったこともあり、深く考えないで、そのまま真冬の装いで家を出ましたが、風も無く汗ばむような暖かさになり後悔しました。

陽気に誘われて外出したのでしょうか、オートバイに乗った若者のグループが何組もけたたましい排気音をたてて通過しました。



今回は珍しい経験をしました。5組の方に「日帰り温泉をやっている旅館はどこですか？」と尋ねられました。日帰り温泉を止めた旅館や改築工事で休業している旅館もあり即答出来ません。テーブルの上の温泉旅館が掲載されているパンフレットを選び、電話で確認するように案内しました。

最初の組の方がその場で電話すると旅館からOKと返事があり、早速その旅館に向かいました。2組目の方にもその旅館名を教えました。3組目の方には、「先を歩いている方達も日帰り温泉に行く方ですからあとを追ってください」と矢継ぎ早に案内しました。その旅館の方は、間を置かずに次々と予約の無い日帰り温泉のお客が来て驚いたかもしれません。

日帰り温泉に行かれた方達は、やはり陽気に誘われて無計画に楽しく家を出て行楽した方達だろうと思いました。

（寺田 記）

七沢森林公園（出会いの広場）

穏やかな気持ちの良いお天気に誘われたのでしょうか。この日も朝早くから多くの方が森林公園を訪れていらっしゃいました。コロナ禍の影響もあり、大人数のグループは殆どおらず、午前中は主に地域の方や宿泊の方、ハイカーや森林セラピーの皆さん、そしてお昼頃からは多くのご家族づれで賑わいました。

また一日を通して犬のお散歩に来られる方がとても多く、どの顔（わんこも含め）にも笑顔が溢れているのが印象的でした。

調査に立っていると、来園された方から散策に関するご質問を多く頂きます。その為、事前に用意していただいた園内マップはあっという間になくなってしまい、管理事務所をお願いをして分けていただきました。

また池で遊んでいたお子さんからは「かえるのたまごをみつけたんだけど、取ってもいいですか？」というかわいらしい質問もいただきました。この時には一緒に事務所へ行って取り次ぐなど、調査以外でも経験の多い一日となりました。（毛利 記）



飯山温泉（中飯山自治会館）



久しぶりの飯山での入込み調査、私には車の往来は以前と変わらないものの、人通りは少ないように感じました。

思い違いかな？と置いていましたが、隣で野菜を売っている方達の話によれば、日曜は土曜に比べて人通りがだいぶ少ないそうです。それでも、10時を回る頃からは、バスが到着するたびに、ぽつぽつとハイキング姿の人や、飯山観音に向かう方が現れ始めました。中には、茨木から来られた方もいて、退職後に「巡礼」を趣味としているとのことで、すでに四国88ヶ所と秩父34ヶ所を回って、今坂東33ヶ所に挑戦していると言うつわものもおりました。

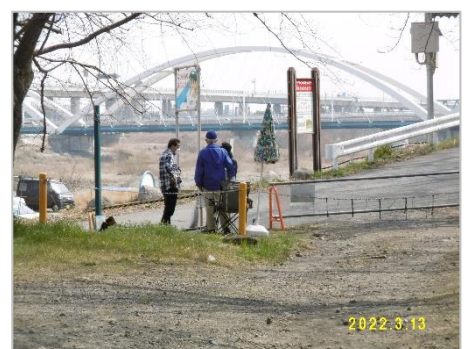
飯山は、花の里というイメージもあるらしく、花を求めて来られるお客様もおられました。残念ながら今は花のはざま期、ロウバイは終わり、桜には早く、お花畑のポピーはやっと芽を出し始めたばかりです。お客様には申し訳なく思いましたが、我々にとっては暖かい日差しの中で、春を感じながらの調査でした。（根岸 記）

相模川三川合流地点（青少年広場）

午前中は陽ざしも穏やかで、野外の活動には好都合の日和でした。

いつもは賑わう河原でバーベキューなどを楽しむグループは少数で、車の駐車も4分の1程の駐車台数でしたが、野球・テニス・ゲートボールなどの運動に訪れる人はたくさんいました。

午後は川風に少し冷気も交じり、桜の開花は東京に比べて1週間以上遅れそうなつぼみに見えました。



相模川の向こう側の左岸を通る相模縦貫道路を見ると、貨物自動車は見たものの、観光バスの姿はなく観光が元に戻るためにはまん延防止の解除に期待が大の様子でした。

(森島誠 記)

観光客数の集計結果

調査場所	観光客数 (人)	昨年度 (3月28日)
広沢寺温泉	608	395
七沢温泉	1,007	743
七沢森林公園	1,067	375
飯山温泉	1,073	1,374
三川合流地点	1,084	492
合計	4,839	3,379



厚木市マスコットキャラクター

あゆむのり

神奈川県「観光かながわNOW」に当協会から、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関する寄稿を行いました。その内容を紹介いたします。(編集担当者)

「厚木に生きた二人の鎌倉武士 (毛利季光と愛甲季隆)」

寄稿者：阿部 啓冊

源義家 (八幡太郎) の子義隆は毛利庄 (厚木市飯山) の領主で毛利姓を名乗りました。厚木市上荻野の源氏河原は義隆の館があった場所と伝わっています。

平治の乱で義隆が討ち死にした後、毛利庄は藤原姓毛利景行が支配しています。石橋山合戦で平家方についた景行は、鎌倉幕府が開かれると清川村煤ヶ谷に館を構えたといわれています。煤ヶ谷の八幡神社は景行が勧請し、その子小太郎・小次郎が現在位置に移したといわれ、明治期には横浜の居留者が宮ヶ瀬で行楽を楽しむとき休憩地として利用されています。

頼朝は源氏ゆかりの地であった毛利庄の預所職に大江広元を任命して



飯山にある池谷山光福寺は、隆寛が匿われた庵でした。境内には隆寛のお墓があります

おり、頼朝が娘大姫の病気回復を祈願し日向薬師に参詣したときに、下毛利庄で広元が用意した昼食をとったことが知られています。毛利庄には広元の四男季光が住み毛利姓を名乗り、承久の乱 (1221年) では北条泰時、三浦義村とともに乱の平定に活躍して安芸国吉田庄や越後国佐橋庄の地頭にもなっています。



毛利義隆の館があったといわれる源氏河原には、言い伝えを案内する石柱が立っています

このころ、天台宗と浄土宗の争いは激しくなり、嘉禄三年（1227）には朝廷も巻き込んだ騒ぎとなってしまいます。浄土宗に帰依していた季光はこの騒ぎで陸奥国に配流されることになった浄土宗高僧隆寛の護送を命じられますが、館があった三島神社（厚木市下古沢）近くの飯山に庵を設けて匿っています。庵は浄土真宗に改宗したときに寺名を池谷山教念寺から光福寺と改めています。境内には飯山で生涯を閉じた隆寛のお墓があります。



下古沢にある三島神社です。境内には「毛利氏発祥の地」を示す碑が建てられています

三浦氏の乱（1247）が起きると季光は三浦方につき北条氏に敗れ自決しますが、越後国にいた四男経光は安芸国吉田庄に逃れています。吉田庄は毛利一族に受継がれ安芸国を支配する大名となりました。下古沢の三島神社境内には毛利家発祥の地の碑が建てられています。



上愛甲公民館の敷地には、愛甲李隆の屋敷跡であることを伝える石柱があります

厚木に住んでいた武士愛甲季隆は古今和歌集でも知られる小野篁（たかむら）の子孫と称し武蔵七党の一つとして栄えた横山党の一員でした。季隆は弓や乗馬の名人として知られ、弓始め、牛追物や鹿狩りに幾度も召し出され、曾我兄弟の仇討が起きた建久四（1193）年の富士野の巻狩りや頼朝が摂津住吉大社で催した流鏝馬の手本の作成に参加しています。

季隆の館は厚木市愛甲にある上愛甲公民館付近とされ、御屋敷添の地名や稻荷神社、土塁が残り、近くの宝積寺には季隆の墓と伝えられる石塔もあります。

館の北西には相模十三社の一つとされる小野神社があり横山党の一人である季隆が深く信仰していたと伝えられています。

季隆は和田合戦で和田義盛に味方していますが、地元には、その理由が頼朝に愛され正妻政子に追われた丹後局を匿い大阪に送り出したことを知った政



小野篁の子孫である横山党の一人愛甲季隆が信仰した小野神社は、相模十三社の一つに数えられています



北条家との決別を決意した場所に立つ「縁切り橋」の碑は厚木市玉川球場の前にあります

子が愛甲館を焼き払ったことにあるという話が残っています。季隆

が炎上する館を見て北条家との決別を決意したという場所には縁切り橋の地名が残り、近くの小町神社には匿われていた丹後局が使ったという小町井戸、化粧池などがあり、島津国史は丹後局が摂津大阪住

吉大社で生んだ忠久が島津家の始祖であると伝えています。

鎌倉にある大江広元のやぐら脇には江戸時代に毛利家の手で大江季光のやぐら、島津家の手で忠久のやぐらがそれぞれ造られています。

「観光かながわNOW」特設サイトは下記から閲覧できます

<https://www.kanagawa-kankou.or.jp/?p=we-page-entry&spot=395268&type=special>

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
3月6日	七沢神社遥拝所 ・日向薬師	会員研修（ハイキング）	会員 5名
3月12日	アミューあつぎ	定例会	会員 15名
3月13日	市内5拠点	冬季観光客入込み調査	会員 11名
3月19日、20日、21日、24日、25日、26日	広沢寺前 駐車場	臨時入込み調査	会員 19名
3月27日	八菅山・鳶尾山	企画ガイドの下見 （八菅山・鳶尾山ハイキング）	会員 8名
3月31日	八菅山・鳶尾山	企画ガイド （八菅山・鳶尾山ハイキング）	会員 8名
4月4日	南公民館	編集会議	会員 4名

編集後記

3月末にかけて不動尻のミツマタが見頃になることから、広沢寺前駐車場で臨時の入込み調査が6回行なわれました。朝から広沢寺前駐車場はあっという間に満杯になり、急遽用意された臨時駐車場もすぐに満杯になるなど駐車場整理に奔走しました。ほとんどのお客様がミツマタ観賞であとはハイキング、魚料理の店がお目当てでした。首都圏で「借りて住みたい街 No1」に本厚木が2年連続で選ばれました。新宿まで電車で約1時間と近いこと、子育て、買い物、山・川などの自然がいっぱいある事等が評価されている様です。厚木市にはハイキングコースや歴史的資産が沢山あります。新しく住民になられた方も含めて、今後さらに楽しい観光ガイドを提供していきましょう。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子